

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



鈴木 竜士

(東京/107期)

今回は東京に移籍して初めての地元記念です。地元だから特別っていうのはいつもなくて、どこでも頑張ろうって思っているんですけど、京王閣でこれからお世話になるので結果で返したいですね。最近成績も悪くはないし、状態も良いんじゃないかなって思います。

高橋 築

(東京/109期)

京王閣はホームバンクだけど、レースを走る機会が少ないので記念は初めてです。最近、調子が良くない原因が分かってきたし、7車立てよりも9車立ての方が得意なので、なんとか頑張りたいですね。記念は予選を突破したことがないから、まずは準決勝を目指します。



真杉 匠 (栃木/113期)

先行基本の競走で着実に力を付けていて、7月宇都宮ではS級初Vを3連勝で達成した。その後も同月松戸1②②着、9月平塚2①③着などF1戦では好走しており、直近4カ月の連対率は7割に迫る勢い。



河村 雅章 (東京/92期)

しばらく優勝には手が届いていないが、このところ勝ち星は多い。8月立川 ①①②着、9月静岡 ①①④着など、ここ5場所は7勝を挙げている。昨年の当所記念では決勝に乗った実績もあり、今シリーズ注目の一車。



林 大悟 (福岡/109期)

1月大宮記念以来のGレース参戦でいつも以上に気合が入っているはず。ここ3場所続けて予選で勝ち星をゲットしているし、9月久留米では準決2着で久しぶりの優参を果たして調子も上向きだ。

競輪ルーキーシリーズ2020プラス

10/27 (最終日) 3R

117期生から始まった「ルーキーシリーズ」で好成績を挙げた選手を集めた企画レース第二弾。前評判をも上回る活躍を各地で見せている新人達だけに、この一戦を争う7名も1名がS級に特進、4名が2班に特進している。
本命は、ルーキーシリーズを連続完全優勝していち早く実力を知らしめた山口拳矢だ。ここまでの快進撃ぶりは最早多言を要しない。9月和歌山では、早期卒業生の寺崎浩と並び負けなしのままでのS級特進を達成。S級初戦の10月大垣決勝で落車して連勝記録は途切れたが、桐山敬、嵯峨昇、中井太を一蹴した準決を見てもすでにS級1班クラスの實力を備えている。父親の幸二氏(62期・引退)譲りのレースセンスも抜群。落車の影響は気になるが、流れに乗っての一撃で決着を付ける。
ルーキーシリーズでは山口に敗れた青野将大だが、本デビュー後の活躍では後を追う。学生時代は中距離種目で活躍したエリートは地脚を武器にした積極策が持ち味。同じくチャレンジは最短で卒業し、1・2班戦も2度完全優勝している。今度は山口を止めるか。
伸び盛りの土生敦弘からも目が離せない。9月にチャレンジから上がると、同月富山1①②着、10月松阪1①①着。「自分で思ってたより先行でやれている」と手応えをつかんでいる。破壊力あるカマシ、まぐりに警戒。
在所ナンバーワンで1・2班戦2戦目の10月小田原を準Vの長田龍拳、パワフルな走りの魅力の石原颯もV争いに加わりた。

S級の山口拳が主役



山口 拳矢